

カーコンビニカーリース

「頭金0円」、しかも「登録時諸費用」や乗っている間の「車検基本料」、「自動車税」、「自賠責保険料」、「自動車重量税」すべてが月々税込み8,000円(※)に含まれています。さらに、ご契約期間満了時には車がもらえます。 ※8,000円は、ボーナス月加算ありの金額となります

「私は、一日266円で

(※)

車に乗ってます」

※266円は、ボーナス月加算額を含んでおりません



※9年カーリースの場合 ボーナス月加算あり



カーコンビニ倶楽部の **0120-29-5353** <受付時間>8:00~22:00
お申込みお問い合わせは 〒108-0075 東京都港区港南2-11-19大滝ビル



林 成治 Seiji Hayashi
出身:北海道 青山学院大学経営学部卒業
1981年4月:プロミス株式会社入社
2008年4月:同社執行役員就任
2008年8月:カーコンビニ倶楽部株式会社 常務取締役就任
2008年10月:同社代表取締役就任
2009年8月:バブル債権回収株式会社 常務取締役就任
2010年4月:株式会社Do Financialサービス取締役就任
2011年1月:同社取締役退任
2011年1月:カーコンビニ倶楽部株式会社 代表取締役就任

限り、ガソリンに付与される政府の補助金はやがて莫大なものになっていき、補助金で賄いきれなくなる。そうなると、実売価格の上昇につながると考えられる。ガソリン代が上がると、日本の交通網の7割を占める運送代上がり、それに伴い、コンビニエンスストアのおにぎりから始まり、Amazonなどの通信販売まで、全ての末端価格が上昇していくことになる。

全ての人々が為替レートとは無関係ではない。マイカーを楽しむ顧客や法人登録のお客様まで、ガソリン代だけでなく、為替レートの影響の中で、カーライフを過ごしている。

カーコンビニ倶楽部も、今後も世界の動向と日本の政治に、以前より増して注意を払いながら、車社会の変化を研究していきたいと思っている。

デフレ脱却をスローガンに、日銀と政府は、インフレ政策を打ち出し、それが功を奏したと喜んでい

る。確かに、資本主義的には、インフレ、つまり、物価が向上し、それによって企業の利益は上積みされ、それが労働者の賃金につながるという循環がよしとされているが、果たして政府の発表する数字や、日銀のデータを鵜呑みにしているのかといつも考える。

数字というのは、マクロとミクロとさらにはそこに憶測を加えたものもありがちな話で、現在の日本経済のインフレは、とても健全なものとは思えない。これは単純にアベノミクスによる後遺症がまだ続いているからだ。何が言いたいかというと、日銀の低金利というより、マイナス金利政策によって、類を見ないスピードで円安となり、その結果、輸入物価が大幅に上がっただけに思える。現在の日本経済の仕組みは、原材料を輸入することで、そこから製品を生み出し、あるいは商品を作り出し、輸出することで成り立っている。全てがそうではないが、どんなにサプライチェーンを作っても、この仕組みは変わらない。特に、資源のない我が国にとって、レアメタルや米以外の農業生産物、さらには牛肉、豚肉に至るまで輸入に頼らざるを得ない状況である。そして、その中の一番重要なエッセンスは、石油である。石油製品はもちろんのこと、兎にも角にもガソリン価格が日本経済に及ぼす影響は大きい。現在のところ、政府が1ℓ当たり20〜30円を負担しているが、冒頭に申し上げたように、今後も円安が続く

暮らしと為替経済